

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, August, 2002

課長 関 勉 T. Seki 幹事 佐藤裕久 H. Sato
幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

【8月の状況】

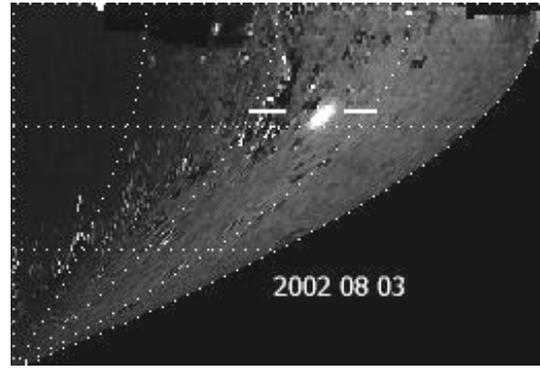
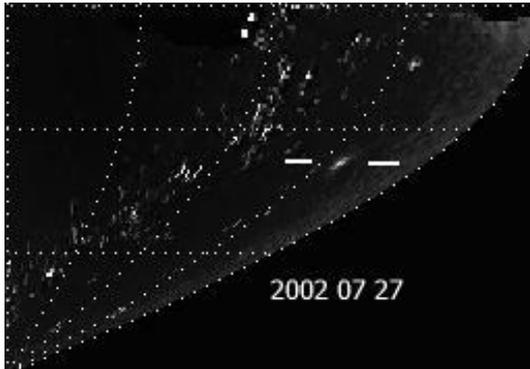
7月末、C/2002 04 (Hoenig) 眼視発見の興奮間もない8月2日午前1時前(JST)、海外の彗星観測者メーリングリスト(comets-ml)に、新たな興奮が伝わってきた。NEOCP(The NEO Confirmation Page)に明るい彗星の位置が載った。「Unk201 [2002 July 27.5 UT. R.A. = 03 53.7, Decl. = -13 38, V = 9.0] Added Aug. 1.66 UT」また Sebastian か?! そのときは、誰かもわからず憶測が飛び交った。当の Sebastian Hoenig 氏からもうすぐ IAUC が発行されるだろう言ってきた。南天であるし、オーストラリアかニュージーランドの搜索者だろうと思われていた。朝方 IAUC 7944 に載っていた発見者は何と宇都宮市今泉の鈴木雅之氏だった。アメリカの A. Hale 氏やオーストラリアの J. Broughton 氏によって確認された。国内では、上尾市の門田健一氏によっていち早く観測された。その後、鈴木氏から発見事情の報告があった。それによると Hoenig 氏の発見手記を読んで、Hoenig 彗星(C/2002 04)が SWAN で見えるかどうか確かめたくなったこと、また、しばらく SWAN を見ていないので見に行ったら移動する天体が2つあり1つは C/2002 04 と気づいたが、もう一つが怪しいと云う事で天文電報中央局(CBAT)に連絡したという。SWAN の画像は黄道座標になっており、それから赤道座標に変換して報告している。SWAN の COMET TRACKER'S MAPS 画像は平均水素光を差し引くことで紫外線の明るいポイントを明らかにする処理をしており、波長 4-125nm の範囲の中で、121.6nm の水素ライマン 付近に彗星は良く反応している。そういえば、4月に鈴木氏らと国内の彗星観測者メーリングリスト(argo-comet のちに comet-obs)で以前 SOHO-SWAN で見つかった彗星 C/2000 S5 について意見交換をしていたことが思い出された。

ところで、C/2002 06 (SWAN)となるまでは、comets-ml では名前がつかないだろう、いや SOHO だ、として SOHO の名前で観測報告するものも出てきた。実際 JPL/NASA の Comet Observation Home Page でも両方の名前が使われていた。筆者は8月13日 UT に CBAT/MPC/ICQ Index WWW サイトの彗星符号リストから SWAN の名がついたことを知ったが、IAUC は8月17日 UT、MPEC は8月22日 UT まで SWAN の名がつかない空白の時があった。

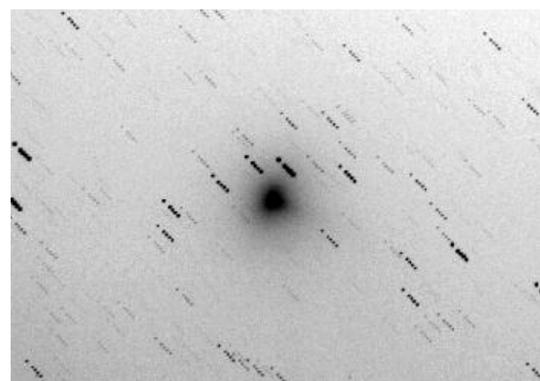
さて、29P/Schwassmann-Wachmann 1 は8月にもアウトバーストを起した。久万の中村氏の第一報によると、スペインの Pepe Manteca 氏による CCD 観測では、8月4.0

日 UT に 12.4 等だった。Rafael Ferrando 氏と Esteban Reina Lorenz 氏によると 7 月 29 日 UT には 15.3 等だったという。オーストラリアの Michael Mattiazzo 氏は、7 月 30.56 日 UT に 28cm 反射 x84 で 13.0 等と観測している。その後の観測を見るとどうやら 7 月 30 日 UT にアウトバーストを起した可能性がある。

これらの彗星のほか比較的明るい彗星は 46P/Wirtanen、153P/Ikeya-Zhang、7P/Pons-Winnecke などである。(Sa)



C/2002 06 (SWAN) 2002,07,27 (UT), 2002,08,03 (UT) いずれも SOHO/SWAN 画像より (The pictures is courtesy of SOHO - a project of international collaboration between ESA and NASA)

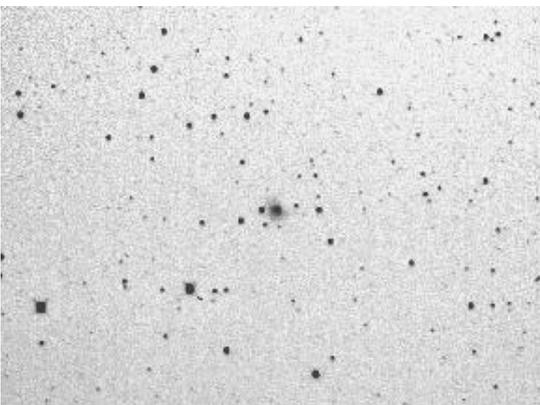
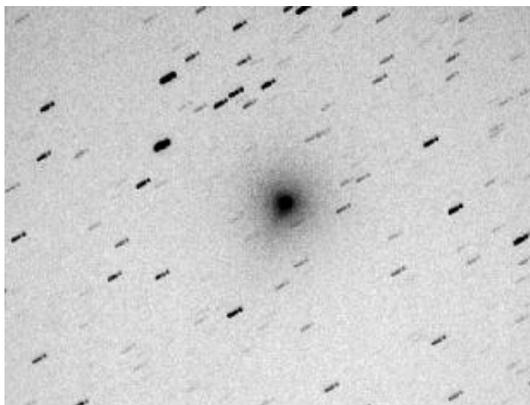


C/2002 06 (SWAN) 2002,08,05

C/2002 06 (SWAN) 2002,08,07

03h 52m ~ 55m (JST) exp.3m 60cmL TP6415
芸西天文台 関 勉 撮影

03h 36.8m ~ 42.4m (JST) exp.40sx5 21cmL+CCD
三重県上野市 田中利彦氏撮影



C/2002 04 (Hoenig) 2002,08,16
0h 31.4m ~ 36.4m (JST) exp.40s x5 21cmL+CCD
三重県上野市 田中利彦氏撮影

29P/Schwassmann-Wachmann 1 2002,08,10
22h 33.8m ~ 39.4m (JST) exp.40s x5 21cmL+CCD
三重県上野市 田中利彦氏撮影

【豊中(340)における観測状況】

太平洋高気圧の勢いがいいようである。梅雨明け十日というが、昼間良く晴れていても夜には曇ったり、久々の晴夜も明け方を待たずに曇ったりで、新彗星 C/2002 06、C/2002 Q1 や明るくなっている 46P、67P 等の観測がないことは遺憾である。

C/2002 04 (Hoenig)

7月30日から8月21日までの6夜に観測を行い、中央集光の強い明るい彗星が足早に移動する様子を観測した(写真1)。

	2002/UT	m1	Dia.	Tail	p.a.	Instrument
Jul.	30.69	12.6	0.7'	1.0'	220°	30cm L + CCD
	31.56	12.2	0.7			
Aug.	05.58	11.4	0.9	2.6	215	
	06.66	11.6	0.9			
	12.57	10.4	2.0			
	21.49	11.3	1.1	2.0	100	

29P/Schwassmann-Wachmann 1

8月5日、またしてもバーストを起こしている姿を捉えた。視直径0.6'、全光度13.3等。全体がベタッと明るく、とても彗星とは思えない姿だが(写真2)翌6日には12.8等、コマ視直径は変わらず、周辺部分が淡く中心部が浮き出てきて彗星らしい姿になった(写真3)。

57P/du Toit-Neujmin-Delporte

7月31日から8月6日までの3夜に観測を行い、14.8等から14.9等、コマ視直径0.5'と暗くなってきたようである。近日点通過後のバーストはまだみられない。

153P/Ikeya-Zhang

8月には既に遠ざかり、16等にまで暗くなった。コマ視直径は0.3'。しかし中心部の集光はまだしっかりしている。

その他の彗星

C/2001 K5 (LINEAR)を8月6日・21日にそれぞれ全光度14.5等・14.7等、コマ視直径0.3'と観測した。ほぼ恒星状の明るい頭部から短い尾が伸びる姿は相変わらず面白い(近日点通過は10月11日である)。C/2002 E2 (Snyder-Murakami)を8月5日に全光度16.2等、コマ視直径0.3'と観測した。C/2001 N2 (LINEAR)を8月21日に全光度16.1等、コマ視直径0.3'の非常に拡散した姿として捉えた。同日、ほぼ同光度の153Pよりもはるかに見えにくい。C/2001 RX 14 (LINEAR)を8月6日に全光度14.0等、コマ視直径0.4'と観測した。C/2002 K4 (NEAT)は16-17等前後と暗くなり、

天の川に入り込んだため、正確な位置、光度とも観測できなかった。

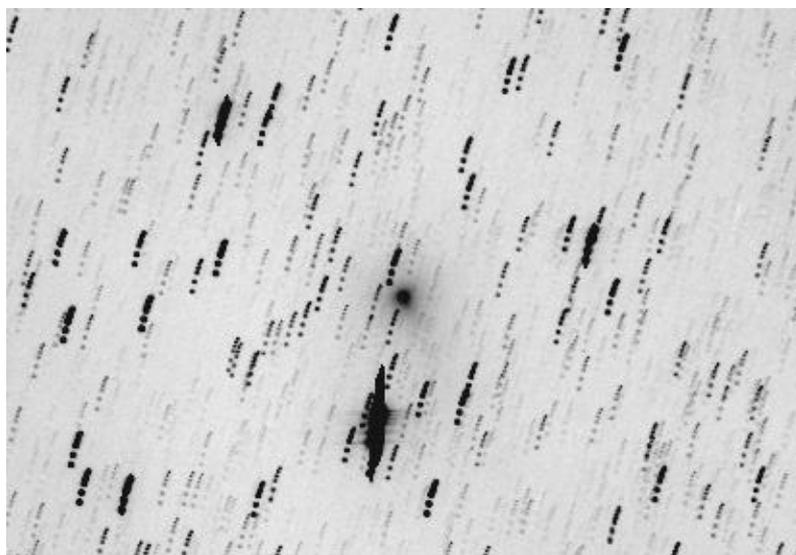


写真1 C/2002 04 (Hoenig)

2002, 08, 05.58 (UT) exp. 30 sec x 6

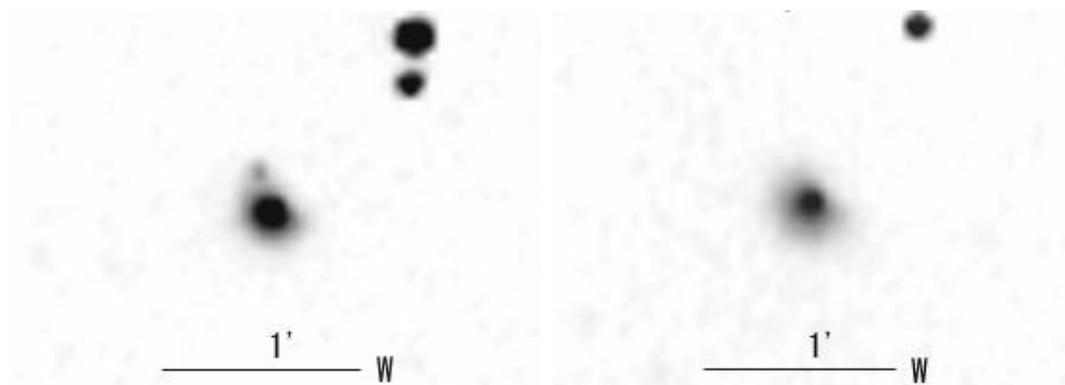


写真2 29P/Schwassmann-Wachmann 1
2002, 08, 05.54 (UT) exp. 30 sec x 5

写真3 29P/Schwassmann-Wachmann 1
2002, 08, 06.63 (UT) exp. 30 sec x 6

(写真1~3)はいずれも大阪府豊中市 江崎裕介が30cm L + CCDで撮像